

期待の表明が 2 者関係に及ぼす影響

○井川純一¹・中西大輔²

(¹広島文化学園大学社会情報学部・²広島修道大学人文学部)

目的

期待をこめて他者に対応することによって、他者の能力が向上するピグマリオン効果 (Rosenthal & Jacobson, 1964) が知られ、近年、言語的報酬が内発的動機づけを高めるエンハンス効果 (Deci, 1971) も含めたピグマリオンマネジメント (Eden, 1990) が着目されている。一方、期待を表明することが他者のモチベーションを高めることができるのかについての実証的研究は少なく、検討の余地が残されている。本研究では、以下の 2 点に着目し、期待を表明することがモチベーションや 2 者関係に与える影響について探索的に検討する。

- 1) 表明他者の好ましさがモチベーションに与える影響
- 2) 表明語句 (並列関係 / 上下関係) が 2 者関係に与える影響

方法

調査参加者 広島文化学園大学の学生 (男性 74 名, 女性 31 名, 平均年齢 18.72 歳)

手続き 調査は、質問紙法を用いた場面想定法実験によって行った。参加者は、試験前に担当教員から声をかけられる内容のシナリオを読み、その後のモチベーションの変化や感情に関する質問項目 (7 項目) 及び、担当教員に持つイメージ (特性形容詞尺度; 林, 1977) に関する質問に回答した。

シナリオ 語句条件 (君には期待しているよ! / がんばれよ!) と好ましさ条件 (好ましい / 特段好きでも嫌いでもない / あまり好きではない) を操作した 6 種類のシナリオを使用した (被験者間要因)。

分析 性別、年齢を共変量として統制した 2×3 の分散分析を行った。

結果

声をかけられた後の教員に対するイメージを検討するために、特性形容詞尺度の探索的因子分析を行い、社会的望ましさ、個人的親しみやすさ得点を算出した。それぞれの得点を従属変数とした分散分析を行ったところ、好ましさ条件の主効果が認められたが、語句

条件の主効果及び交互作用は認められなかった。モチベーションの変化や感情に関する質問項目 (7 項目, Table 1) を従属変数とした分散分析においては、すべての従属変数において好ましさの主効果は認められたが、交互作用は認められなかった。語句の主効果は、「監視されている」においてのみ認められた ($F(2, 96) = 4.06, p < .05, \eta^2 = .04$)。

Table 1

モチベーションや感情に関する質問項目

声をかけられてうれしい。

試験をがんばろうと思う。

できるだけ良い成績を取りたいと思う。

試験に向けてやる気が出ている。

単位を取るために、仕方なく勉強をしようと思う。

声をかけられて嫌な気持ちである。

監視されているような気分である。

考察

好ましさの主効果に関する下位検定の結果、好ましく感じていない人物から期待の表明があった場合には、モチベーションの向上が認められないことが明らかとなった。また、2 者関係に与える影響について検討したところ、「監視されている」において、語句の主効果が認められ、期待を表明することがネガティブな効果を起こしうることが明らかとなった。

このことの要因として、「期待している」という表現は、上下関係のある 2 者との間で表明されることから、高圧的メッセージとして理解される可能性があることが示唆される。つまり、好ましくない他者から期待を表明された場合には、人が欲しがったり、必要としたりするものをある条件のもとで提供し、それによって他者の行動をコントロールしようとする通俗行動主義 (Kohn, 1993) の意図を感じ、むしろ期待した方向の行動変容を起こしにくくなる。ピグマリオンマネジメントを有効にするためには、両者の関係に基づいた声かけについて吟味する必要がある。今後、質問項目を吟味し、期待表出後の表出者のイメージの変化や、行動の変容に着目した検討を行う必要がある。